

第 44 回機器・配管系検討会 議事録

1. 日時 平成 25 年 2 月 25 日 (水) 10:00~11:40

2. 場所 日本電気協会 4 階 B 会議室

3. 出席者 (順不同, 敬称略)

出席委員: 藤田主査 (東京電機大学), 中村副主査 (防災科学技術研究所), 戸村幹事 (日本原子力発電), 行徳副幹事 (日立 GE), 原 (東京理科大学), 清水 (北海道電力), 波木井 (東京電力), 尾西 (中部電力), 松田 (北陸電力), 小江 (関西電力), 細谷 (四国電力), 中村 (九州電力), 遠藤 (JANSI), 中島 (東芝), 吉賀 (MHI 原子力エンジニアリング), 神坐 (富士電機) (計 16 名)
代理出席: 大江 (東北電力・飯田) (計 1 名)
欠席委員: 渡邊 (埼玉大学), 飯島 (JNES), 田村 (中国電力), 石川 (電源開発), 堀内 (原子燃料工業) (計 5 名)
事務局: 糸田川 (日本電気協会) (計 1 名)

4. 配布資料

資料 44-1 第 43 回 機器・配管系検討会 議事録 (案)

資料 44-2 原子力発電所免震構造設計技術指針 (JEAG4614-201x) 原子力規格委員会書面投票反対意見に対する回答

資料 44-3 原子力規格委員会 耐震設計分科会 平成 25 年度活動計画 (案)

参考資料-1 耐震設計分科会における規格策定・改定における要検討事項の整理について (案)

参考資料-2 発電用軽水型原子炉施設の地震及び津波に関わる新安全設計基準 (骨子案: 平成 25 年 1 月 29 日) と耐震設計技術規程及び指針他の関係

参考資料-3 JEAG4614「原子力発電所免震構造設計技術指針」改定案に関する書面投票の結果について

5. 議事

(1) 代理出席者の承認及び定足数の確認

事務局より, 代理出席者 1 名の紹介を行い, 主査の承認を得た。出席者は代理を含めて 17 名で, 委員全 22 名に対し決議に必要な「委員総数の 3 分の 2 以上の出席 (15 名以上)」を満たしていることを確認した。

(2) 前回議事録の確認

事務局及び幹事より, 資料 44-1 に基づき, 第 43 回機器・配管系検討会議事録 (案) の説明があり, 一部修正の上, 正式議事録とした。

(4p 下 10~12 行目の下記下線部: 修正後)

- ・例えば積層ゴムで, 1 軸で試験するのと 2 軸でリサージュをもたせて試験するのでは限界耐力が違ってくるのが実験でも判って, 改良されてきた。このようにディテールにわたって 3 次元で加振したときに問題が出る可能性があるので, この質問には答えられなくなる。組み合わせなくてよい理由がある。

(3) JEAG4614「原子力発電所免震構造設計技術指針」改定案に対する書面投票反対意見に対する対応について

幹事より, 資料 44-2 に基づき, 原子力規格委員会の書面投票における反対意見に対する回答案の説明があった。審議の結果, 回答をより分かりやすくするため, 意見に対して直接的に回答する形に記述・

表現を見直すこととした。また、事前に意見者の意見の背景・意図を確認させていただく機会を持ち、確認結果を反映した回答案を3/13の耐震設計分科会で審議する。承認が得られれば回答書を送付し、反対意見が取り下げられた場合は、可決となり、公衆審査に移行する。取り下げられない場合は、3/19の原子力規格委員会において再審議・再書面投票(2次投票)となる。

(主なコメント)

- ・意見は、 iS_B の入力に対して建屋の応答値から機器の設計をせよというものである。この回答は直接的な回答になっていない。
 - ・もう少し、直接的に回答する方が分かり易いと思う。意見の主旨は、 iS_B の変位を考えなくていいのかどうかということであるから、Cクラスについては、一般産業施設のもの考慮する必要はないとか。また、根拠を示すポイントがあると思う。こういうものを入れて、もう少し直接的に回答した方が分かり易いと思う。
 - ・もともと耐震設計審査指針からの要求と、建築基準法からの要求が混在しているので、それが分かるように説明すれば、質問に対する直接の回答が明確になると思う。
 - ・設計のやり方をもう一度説明し直さないと、意見者と議論がかみ合わないのではないかと懸念している。また、この意見者が分かったとしても、また、同じような意見・質問はくりかえされると想像される。一般の人が分かるようにしたい。免震建屋の二次設計とは何か、 iS_B を導入した経緯を説明する必要があると思う。
- この回答資料に建物側の回答まで踏み込んで記載するのは難しいので、回答資料とは別に、これまでの資料をベースに、手持ちで持参して事前に説明する機会を持ちたい。その上で、質問に明確に答えるような形で修正する。意見の背景・意図を確認に行くというスタンスだ。
- ・いつまでに回答する必要があるのか。
- 3/19に原子力規格委員会があるので、その前に回答する手順となる。3/13が耐震設計分科会であるので、できればその前に説明に行くよう調整する。相手の意向を確認しつつ、進めたい。

(4) 耐震設計分科会 平成25年度活動計画等について

幹事より、資料44-3に基づき、来年度の機器・配管系検討会に関する活動計画の内容について、概要紹介があった。また、参考資料-1の39頁“JEAC4601-2008 改定項目の抽出について”等により、本検討会に関する今後の活動予定項目の紹介があった。

(主なコメント)

- ・中長期活動計画欄の“電気・制御系の耐震設計など・・・”及び“次期耐震設計規程・・・作業報告書”の記載は過去の古い記述が残っているのではないか。
- 確認し、誤記があれば、記載削除する。
- ・“原子力発電所の地震後の再起動に関する基準”については、3.11対応の諸活動を情報収集するものとして、項目は残しておく。
 - ・参考資料-2は、参考資料-1の一部差替え版として準備されたものであるが、内容が古い。
- 後ほど、最新版をメールで委員に送付する。

(5) その他

次回(第45回)検討会の開催日程は、4/上旬~4/中旬頃を目途に、別途調整することとした。

以上